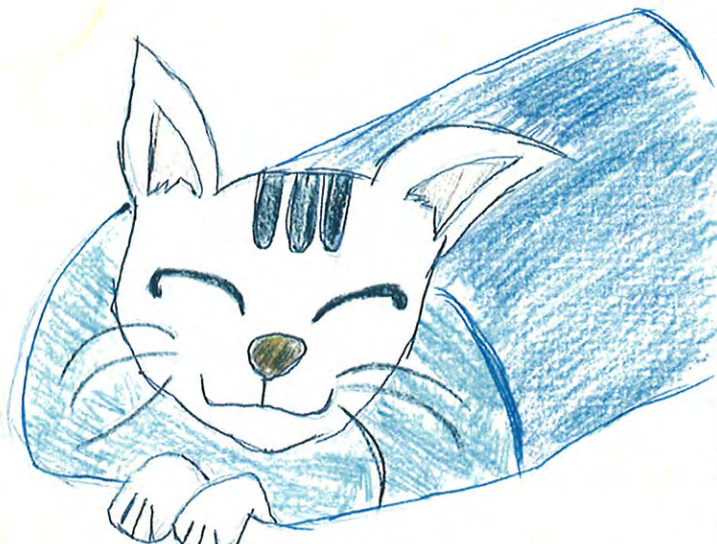


ミヤーと大切な場所と思い出

トコトコと起きてきた『ねーねー』。昨日から寒い夜がつづいていた。ねーねーがカーテンを開けると、真っ白い町が広がっていた。そして、ドアを開け、真っ白い世界へ歩き出した。



私の高校には一ぴきの猫がいた。十何年も前に迷いこんできたのだ。ここにすんでいる一ぴきの猫『ミヤー』は、どこの猫よりもとっても幸せにくらしていた。十二月二十二日、ミヤーはかえらぬ猫になった。

「ミヤー？ミヤー？・・・どうしたんだい？」

と、かいぬしの『山崎先生』が問いかけた。

ミヤーの返事はない。

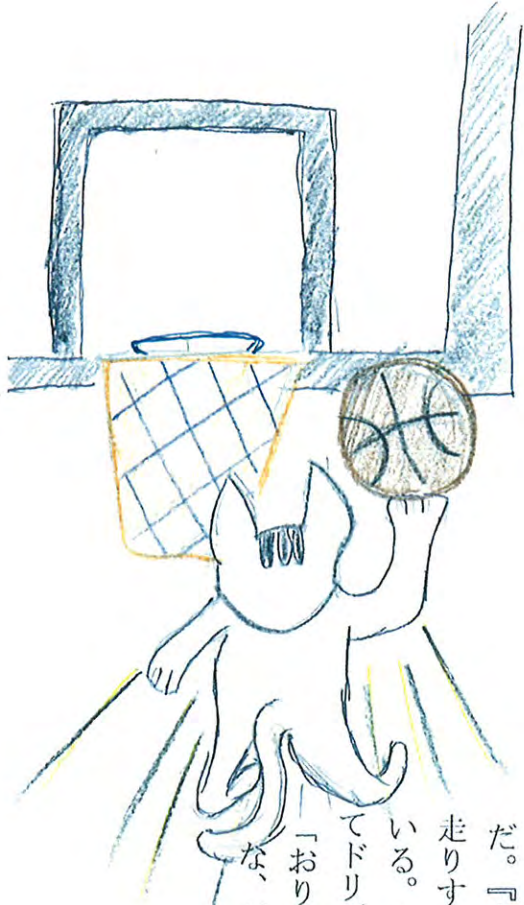
ねーねーが学校に着くと『はっ・・・』となった。

昨日の夜、あまりもの寒さで死んでしまった。

『ポロリポロリ』と涙が流れる。

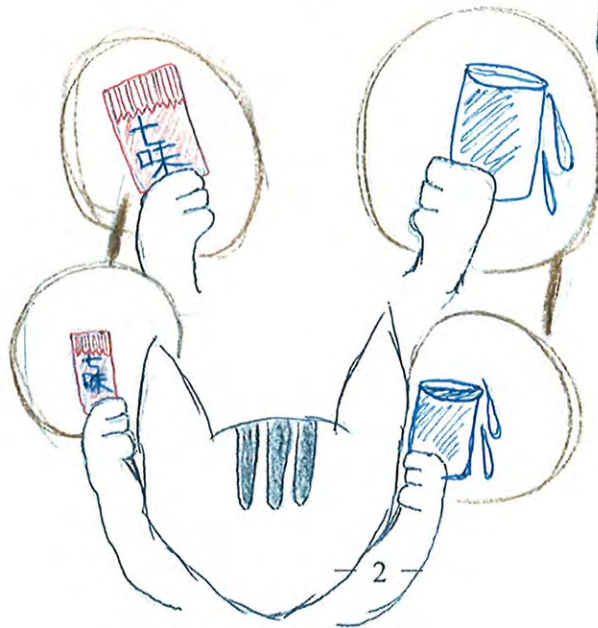
「ミヤー、前みたい楽しくくらしたいよ・・・」。





『夕』五時からバスケの練習が始まる。  
ミャーはこれでも『マネージャー』  
だ。『トコトコトコ・・・』と小  
走りするミャーは、二本足で立って  
いる。しかも、ボールまで手にもつ  
てドリブルを・・・  
「おりやおりや・・・おいらが好き  
な、ダンクシュート」

『昼』手を洗い、うがいをして食堂へ  
むかう。  
そして、しよていの位置にすわり、  
ごはんを食べる。  
それも、人間の食べ物『カレー』だ。  
七味を加え、水をコップにたっぷり入れ、  
おぼんにのせている。  
「いっただつきまーす」  
と大きな声でいった。幸せ気分のミャーは、  
ムシヤムシヤと食べている。



『朝』起きると顔を洗う。ミャーは、  
みんなが学校に来る前に自分用つくえ  
にスタンバイ。手にえん筆を持ち、つ  
くえにノートと教科書を開き、先生の  
の話を聞く。人間語も分からないくせに  
ちやっかりと勉強している猫って・・・  
いったい・・・何者だ。

と言ったものの、ボードに顔面ちよくげき。  
「ミヤーゴロミヤーゴロ」  
と泣いている。でも、五回に一回は  
成功するダンク。  
これは、必ず学校の歴史に残るだろう。

こんな楽しいこともあり、悲しいこと  
もあり、この学校にくらしてきた。  
今日は、おそう式。みんなとの最後の  
別れ。

ミヤーの世界から見える世界。  
みんなとはちがう世界でも、いつでも  
同じ場所で楽しくくらしてる気がするねーねー。  
「ちがう世界でも大丈夫。みんないっしょ。  
さみしくないよ。」  
とミヤーに問いかけ、ミヤーに手をあわせた。

〈おわり〉

